

■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

読みの困難を抱えた児童への読書活動での活用② —選んで読む楽しさを広げる—

島根県松江市立意東小学校
井上賞子

研究目的

読みの困難を抱えている対象児童に対し、音声の補助がある読書環境を整えることで、本の世界を楽しむ体験につなげていく。

活用実態

〈対象児童と介入前の状況〉

Aさんは、自閉症・情緒障害特別支援学級の2年生です。入学した段階では、1文字も読むことができず、自分の名前のかたまりの判別も困難でした。

読み聞かせの場面では、楽しそうにお話を聞く様子も見られたことから、聞くと状況をイメージすることはできていたと推察されますが、自分から絵本を手にする姿は見られませんでした。

また、基本的な名詞や動詞の語彙はありましたが、形容詞や擬態語など、わからない言葉も多くありました。家庭での様子を聞いても、ストーリーのあるアニメーションはあまり好まず、ゲームをして遊ぶことが多いとのことでした。

スタート時は正直、知的な遅れも疑われる状況でしたが、その後、音と文字の一致を促す指導の中で、するすると文字の習得は進んでいきました。また、算数などの取り組みから、知的な課題がないことも推察されました。発信は少ないものの、いつの間にか同級生の名前を全員覚えているなど、「聞いて覚えていく」ことにも問題はないと思われました。

しかし、「文章の理解」となると、言葉のかたまりが意識できなかつたり、文字を音に変えるので精いっぱい、内容の理解が進まなかつたりといった様子が見られました。そこで、マルチメディアDAISY教科書を導入したところ、追い読みに設定して音で確認して読んでいくことで、内容をとらえることができるようになりました。

そして2年生の春には、追い読みの設定をしなくても、読みあげを聞きながらいっしょに読んでいくことができるようになっていきました。

一方で、読書活動自体の広がりは厳しい状況でした。昨年度作成した「わいわい文庫索引ファイル」を見せながら読みたい本をいっしょにさがしましたが、ぱらぱらとめくるものの、なかなか自分で「これを読む」と決めることができませんでした。

教師が「これはどう？」と提案すると素直に読み、音の手がかりがあるので内容も理解している様子でしたが、あくまでも「読めと言われたから読む」という状況で、「読書を楽しむ」というところまではいたっていませんでした。

〈わいわい文庫ポスターの活用をスタート〉

・「自分で読みたいものを選ぶ」ことで読書への意欲づけにつなげたいと考え、より一覧性の高い「わいわい文庫ポスター」を使っての提示を試みたところ、「この中ならねえ……」と言いながら読みたい本を選ぶ姿が見られた。



「この中ならねえ……」

- ・ 読んだ本にシールを貼って、「次はどれがいいかな」と声をかけると、「あとはねえ……」と考えながらポスターの画像を見比べて「これがいい!」と選ぶことができた。
- ・ 「シールが4枚になったよ!」と、振り返って喜ぶ姿も見られた。

〈絵本アプリの活用へ移行〉

- ・ わいわい文庫のポスターから、一覧性のある提示が有効だろうという見通しはもてたが、ほとんど本を読んだ経験のないAさんにとってはむずかしいものも多かったため、「まずは絵本を読む体験から」ということで、絵本アプリを導入した。

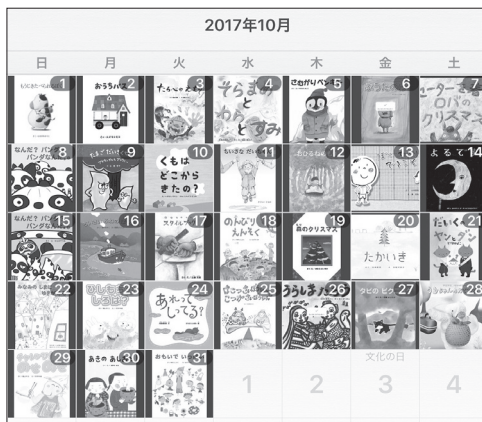


さまざまな絵本を読めるアプリ

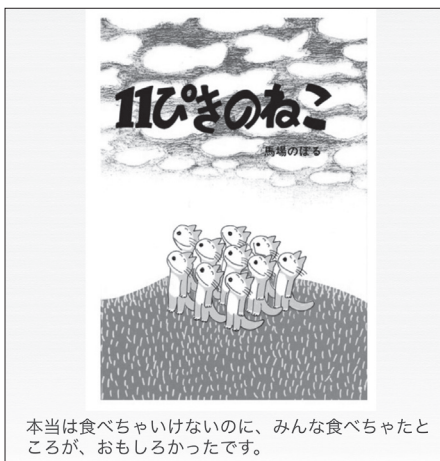
- ・ 導入に際しては、「一覧性があるAさんが読みたいものを選びやすい」「音の情報だけでなく、文字情報も提示される」という条件で検討し、「絵本が読み放題! 知育アプリPIBO 無料お試しつき! 子供向け」をインストールした。

〈読書記録との連動〉

- ・わいわい文庫のポスターに貼ったシールを数える姿から、「読書の記録をつけていく」ことも有効だと思われたので、「読んだ絵本の表紙をスクリーンショットにとって、カレンダーアプリに一言感想と一緒に記録していく」という活動につなげた。
- ・1か月ごとに「今月のイチオシ」を決めて、マインドマップを使って「どこがおもしろかったか」をまとめて紹介する」という活動も行った。



オリジナル読書カレンダー



本の表紙と一言感想



「今月のイチオシ」マインドマップ

〈Aさんの取り組みの姿〉

- ・「一覧から選ぶ」ことには意欲的に取り組み、「これにしようかな。やっぱりこっちがいい」と、楽しそうに見比べて選んでいた。
- ・絵本アプリで選べる本は対象年齢に幅があり、比較的やさしいものから高学年対象のものまでであったが、Aさんが選ぶ本は、おおむね4歳～7歳程度までを対象としたものが多かった。
- ・『うさぎとかめ』『さるかにがっせん』といった定番の昔話も、「初めて読んだ」と言いながら好んで読んでいた。
- ・読み上げに合わせて、文字を目で追いながら、自分でも声に出して読んでいた。
- ・すべてが初見の絵本だが、音があることで、スムーズに読む姿が見られた。
- ・読み終えた後の感想や、時折こちらから質問した時の応答から、内容も把握できていることがうかがえた。
- ・カレンダーアプリが読んだ本で埋まっ

ていくのがうれしかったようで、記録は忘れずにつけることができた。

- ・一言感想は「……したところが、おもしろかったです。」というパターンでの表記がほとんどだったが、「お」と入力すると「おもしろかったです。」が出てくる予測変換をうまく活用しながら、負担感なく取り組み続けることができた。
- ・5月から始めた読書記録は、12月現在で200冊を超えており、今も1日1冊は新しい本を読んでいる。

〈Aさんの読書の広がり〉

- ・2学期に入ったくらいから、教室に置いてあった「コロコロコミック」や「ドラえもん」などのマンガを手にとって読む姿が増えてきた。
- ・今は、休憩時間になるとソファにそうしたマンガを持って行って、くすくす笑いながら黙読したり、セリフをテンポよく抑揚もつけて、声に出しながら読んだりする姿が日常的にみられる。
- ・保護者に状況を説明し情報共有をして、マンガ雑誌や単行本などを家庭に置いていただくようお願いしたところ、家庭でもそうした本を手取る姿が見られるようになってきた。
- ・放課後児童クラブにあった「科学漫画 サバイバルシリーズ」を気に入り、日常的に繰り返し読むようになった。その後、自宅でも「サバイバルシリーズ」

を読みたいとせがむようになり、図書館で何度か借りた後、数冊を購入して楽しんで読んでいる。

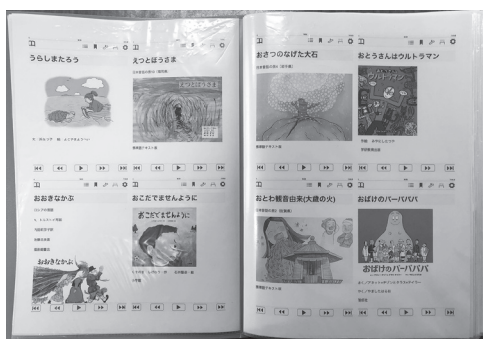


電子図書で読みの困難を克服し、読む楽しさが身についた

〈考察〉

- ・音による支援は、Aさんにとって有効であり、それがあつて書かれている内容の理解が支えられている。

- ・しかし、それだけでは「日常的な読書」や「読書を楽しむ」ところまではいかなかった。そこには、「自分で読みたいものを選ぶ」ことができる環境設定が必要だった。
- ・昨年度作成した「わいわい文庫索引ファイル」は、見開きで8冊の情報だったが、スクリーンショットを使用していたため必要ない情報も入っていたり、ページ数が多すぎたりして、Aさんにとって「読みたいものを見比べながら探す」ことができる提示になっていなかった。



昨年度作成した「わいわい文庫索引ファイル」

- ・わいわい文庫ポスターは、表紙の画像が一覧になっており、「見比べながら探す」ことに適していた。また、時間の表示があったことも「読みやすそうだ」「これは難しいかもしれない」という判断材料になっていたようだった。



わいわい文庫のポスター
読み終わった本にシールを貼ったもの

- ・後半導入した絵本アプリは、読書経験が極端に少ないAさんにとって、難易度的に適していたと思われる。内容が比較的やさしい絵本を、音を手がかりにしながら1人で読むことが習慣化していくなかで、「読みたい」「読むと面白い」という意欲が広がっていったと感じている。
- ・文字を追っていきながら内容を読み取っていくという体験を重ねたことで、言葉のかたまりのとらえ方が、以前よりスムーズになってきている。その結果、音の情報が無いマンガや雑誌であっても、絵の手助けを借りながら、読んで内容を楽しむ姿が広がってきたと思われる。
- ・シリーズものは世界観や登場人物が共通しているので、イメージをもちながら楽しく読むことができています。
- ・今後は、習慣になってきた音声絵本

を使った読書の継続と並行して、Aさんが興味をもったシリーズやキャラクターの出るマンガや本を中心に、教室内に学級文庫を作り、アナログの本についても、「手に取って楽しむ」ことができる環境整備をしていきたい。

来年度に向けて

昨年度の対象児童にとっても、今年度のAさんにとっても、音による支援が読書を支えたことは明らかでしたが、それが日常的な活動になっていくには「自分で読みたい本が選べる」環境づくりが重要になってくることを痛感しています。

そのためには、わいわい文庫や絵本アプリなど、音声のついた図書の整備

はもちろん大切ですが、そうした音声図書がアナログの図書を読むことと同様の評価を受ける必要もあると感じています。

本校では読書活動が盛んで、学年ごとの「おすすめ本一覧」が作られ、それをどれだけ読んだかで「読書名人」の認定が行われてきていますが、現状では、音声図書を読んでもその評価は得られません。

音声図書が読書の前提として必要な子どもたちの存在をふまえ、「おすすめ本音声図書版」を作成するなど、学校の図書館活動の全体計画のなかに「音声図書の活用」を位置づけていくことで、子どもたちが自分の特性に応じて「読書のあり方を選べる」環境を整えていきたいです。

